

■植え替え

植え替えは1年ぐらい前から考えて、1年サイクルで考えたほうが移植でもうまく育ちます。

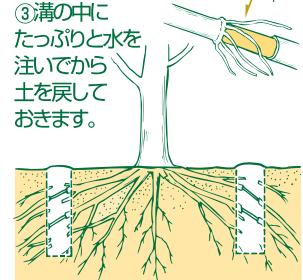
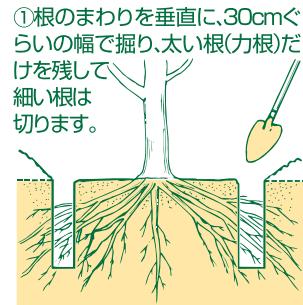
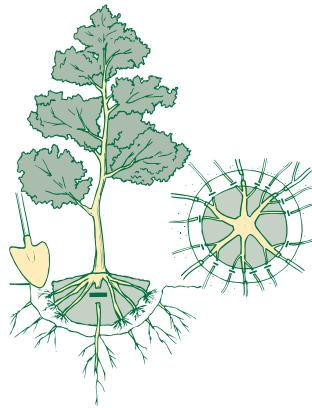
●時期

落葉樹……11月下旬～2月

常緑樹……3月上旬、6月下旬～7月上旬で、葉は少し減らしておきましょう。

<根切りと根回し>

若い樹は1年ぐらい前に根のまわりに、スコップができるだけ深く突き入れて、伸びた根を切っておきます。またかなり成長した木や古木はさらにさかのぼって、できたら2～3年前から根回しをやりましょう。そうすると掘り上げたときには鉢の中にたくさんの細い根ができて、移植の傷みをいくぶんかは和らげることができます。



病虫害対策

●主な病気

すす病 葉の表面に黒い菌糸が現われ、すすでもついたように見える病気の総称で、モチノキ科、ツバキ科、常緑カシ類、シイ、ホオ、ニレ、クチナシ、タケ、マツなどがよくかかります。

空気の流れや日射の不足、肥料不足、チソ過多が主な原因ですので、枝をすかして肥料を与え、カイガラムシやアブラムシを駆除しましょう。

葉ぶるい病 病原菌が入って褐色の斑紋ができる、急に葉が落ちるという症状の総称です。マツ、アスナロ、カラマツなどの針葉樹がよくかかります。栄養不良や乾燥、寒さ、害虫などによって衰弱すると、7～8月に発病し、翌年の3～4月頃に病気がすんで葉が落ちはじめます。ボルドー液や銅水銀剤を春から秋にかけて数回散布してください。

●主な害虫

アブラムシ類 スミチオン乳剤を薄めて散布します。

カイガラムシ類 カルホスやオルトラン水和剤、スミチオンなどで殺虫します。

チャドクガ 5～6月頃に茶の木やサザンカ、サカキなどによく発生する害虫で、カルホスやディブテックスなどを散布してください。

アメリカシロヒトリ 5月下旬に幼虫になり、7月になるとさなぎとなって7月中旬には成虫になります。これが7月に幼虫となり、9～10月にはさなぎになってそのまま越冬します。幼虫の現われる時期にディブテックス、オフナック乳剤などで5～6月、8～9月の2回散布するか、アメヒトは固まって葉を食害する性質を持っているので、枝ごと切り取って焼くか、棒に新聞紙や古い布を巻きつけて火をつけ、焼いてください。

ここがポイント!

毎年きれいな花を咲かせるために花芽を大事にしましょう。

葉を取りすぎないようにして、しっかりと光合成できるように剪定しましょう。

・樹木全体を日光に当てましょう。

・花芽は樹種によって形成する時期が違うので、適期に剪定しましょう。

<花芽のつくところ>

・前年の枝から伸びた短い枝の芽の腋。

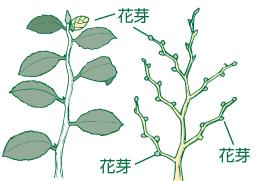
・新しい枝の各葉の腋。

・充実した新しい枝の頂芽。

・新しい枝の上部2、3芽。

・新しい枝の頂芽とその下2、3芽。

・新しい枝の先端から各葉の腋のすべて。



サービスのご案内

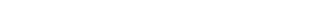
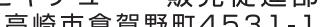


配送・宅配便 切り売り商品 修理



返品・交換 表札・額の受注 スペーキーづくり

●クレジットもご利用になれます。



制作発行／株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

TEL.027-345-1111(大代表)

©無断転載は禁止します

庭木・花木の育て方

自分でやってみよう!

セキチュー How To D.I.Y

88



四季を最初に感じるのは、空気の暖かさや冷たさと、目に入ってくる庭木や花のちょっとした変化ではないでしょうか。園芸の楽しみは、育てて、それを鑑賞すること以外にも、そういった感覚を大事にしたい人にとっては格好の趣味ではないでしょうか。

花の咲く木、実のなる木、そして形を楽しむ木、いろいろな庭木の楽しみ方を紹介します。

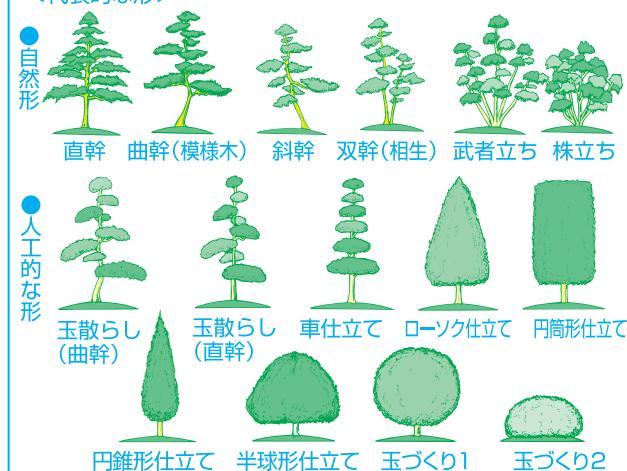
Do it Yourself & Save

庭木、花木の選び方と育て方

■ 選び方

●姿や形を楽しむ木

マキ・マツ類・イチイ・イブキ・カイヅカイブキ・ヒバ・シイ・ニッケイ・ホオ・モミジ・ユズリハ・ハゼ・モチ・カエデ・モッコク・ヒメツバキ・ソテツ・ヤシ類・シロ等。
＜代表的な形＞



●花を楽しむ木

ウメ・サンシュユ・シャラ(ナツツバキ)・マンサク・ジンチョウゲ・ボケ・コブシ・レンギョウ・サクラ・ユキヤナギ・ハナズオウ・アセビ・モクレン・アメリカナミズキ・アカシア・ライラック(リラ)・バラ・ドウダン・ツツジ類・ウツギ・オオデマリ・アジサイ・ボタン・クチナシ・カリン・シャクナゲ・ムクゲ・キョウチクトウ・サルスベリ・ハギ・サザンカ・キンモクセイ・フジ等。

●繁りを楽しむ木

タマヒムロ・クジャクヒバ・ヒメアスナロ・ヤツデ・カナメモチ・トベラ・サカキ・キツタ・ヒイラギ等。

●美しい実のなる木

ナンテン・ハナミズキ・サンザシ・センダン・ソヨゴ・マサキビラカンサ・グミ・カクレミノ・ウメモドキヒメリング・ムラサキシキブ・ヒイラギ・ナンテン等。

●根締めに適した木

マサキ・サカキ・サンザシ・アオキ・イヌビワ・ヤツデ・センリョウ・マンリョウ等。

●刈込み姿を楽しむ木

ビャクシン・イヌツゲ・サツキ・サカキ・マテチャニシキギ・ドウダン・ツツジ等。

●生け垣を楽しむ木

チャ・マキ・アラカン・チャボヒバ・カイヅカイブキ・ウバメガシ・サンゴジユ・ネズミモチ・サカキ・ヒイラギ・マツツゲ・ヒメツゲ・ベニカナメモチ・サンカ・サツキ等。

●竹類

クロチク・シロチク・スズコナリヒラ・モウソウチク・ダイミンチク等。

■ 増やし方

1.さし木

さし木の季節と呼び名

＜春ざし＞ 2月下旬から4月下旬の間で、だいたい3月が中心なので、彼岸ざしとも呼ばれています。落葉樹や針葉樹は一般的にはこの時期が最適。

＜梅雨ざし＞ 5月ざし、夏ざしとも呼ばれ、常緑広葉樹に多く用いられます。

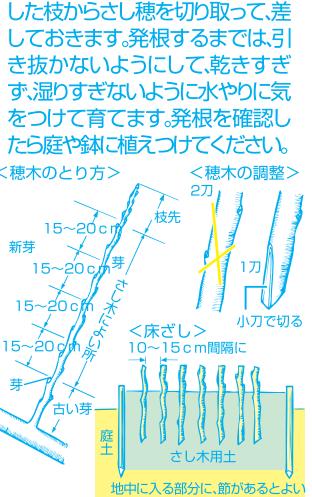
＜夏ざし＞ 梅雨が過ぎた頃に行うさし木で、土用ざしとも呼ばれています。常緑樹に限ってはこの時期でも大丈夫です。特にジンチョウゲやナツボウズはこの時期が一番です。

＜秋ざし＞ 暖地と寒地があるので、時期がずれますが、落葉する時期にやります。発根は少ないですが、春になると急に成長します。

＜さし木に適した木＞ ボケ・イチヨウ・ウツギ・アジサイ・ヤマブキ・ヒバ・コノテカシワ・ナンテン・ジンチョウゲ・アオキ・マサキ・サツキ・ツツジ・ウメ・キヨウチクトウ・クチナシ・クロトン・サンバン・カ・サルスベリ・シロチク・シャクナゲ・モクレン・ロウバイ等。

＜さし木の仕方＞ 無菌の用土(桐生砂・バーミキュライト)に充実した枝からさし穂を切り取って、差しておきます。発根するまでは、引き抜かないようにして、乾きすぎず、湿りすぎないように水やりに気をつけて育てます。発根を確認したら庭や鉢に植え付けてください。

＜穂木のとり方＞



2.取り木

さし木ができる木はほとんど取り木もできます。

＜時期＞

発根しやすい時期で、4~6月が最適です。

＜取り木の方法＞

●盛土法(萌芽法、芽吹き法)

①地上付近にたくさんの枝を出す樹はそのまま、そうでない樹は剪定して、なるべく多くの枝が出るように台切りをしておきます。

②枝の基部は発根を促すために少し切り目を入れて、この部分が

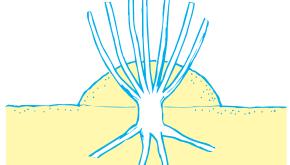
相当深く隠れるように半球状に

盛土をして、適当に湿り気をもた

せておきます。1年ぐらいでほと

んど発根しますが、しない場合は

気長く発根を待ちましょう。



●圧条法(曲取法、撞木法、波状法)

萌芽した枝を曲げて、地中に入れて発根させる方法で、発根させたい部分は少し皮をはいでおきましょう。これと同じ方法で、たくさんの苗木を取り撞木法や波状法等があります。

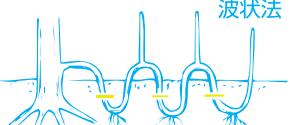
曲取法



撞木法



波状法



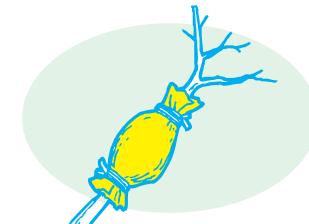
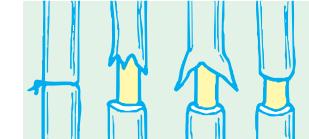
●高取法

これは観葉植物にも応用できる方法で、高い枝の部分を発根させて、苗木を作る方法です。これもさし木のできる木ならほとんどできます。

＜高取の方法＞

①取りたい部分を環状に樹皮を2~3cmほどはぎ取ります。

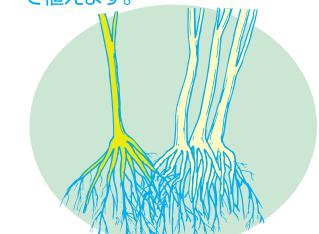
高取り法はこれが一番肝心で、うまくはぎ取らないと発根しなかったり、根張りの形が悪くなってしまいます。また幅が狭かったり、浅かったりすると、樹皮が盛り上がり(橋がかかる)発根しなくなります。



②はがした部分を練った赤土で包みこみ、その上から水ゴケを巻き、むしろやビニール、シロの皮などでおおいます。

③乾燥せないように毎日水をやります。乾燥させると発根しません。

④発根してくると、水ゴケの外まで根が出てくるので分かります。根がある程度出たら、まず1ヵ月ほど前から下の方の結び目の位置にひとつ目の切りこみを入れ、それから半月ほど経ってから反対側の少し上方にふたつ目の切り目を入れ、2週間ほどしてから完全に切り離して植えつけます。



『肥料の与え方』『苗木の植え方』等は当社発行のハウツーペーパー No.86 「庭で栽培できる果樹」をご覧ください。『剪定・整枝』は当社発行のハウツーペーパー No.90「庭木の剪定と整枝」をご覧ください。